

授業の変化

新学習指導要領が平成32年度から実施される小学校では、中学年は外国語活動が年間35時間、高学年は英語科が年間70時間導入され、新たな時間割が編成されることとなります。

(単位：時間)

	現行		平成32年度以降	
	外国語活動	英語科	外国語活動	英語科
小学校 中学年			35	
小学校 高学年	35			70

※1時間当たりの授業時間=45分

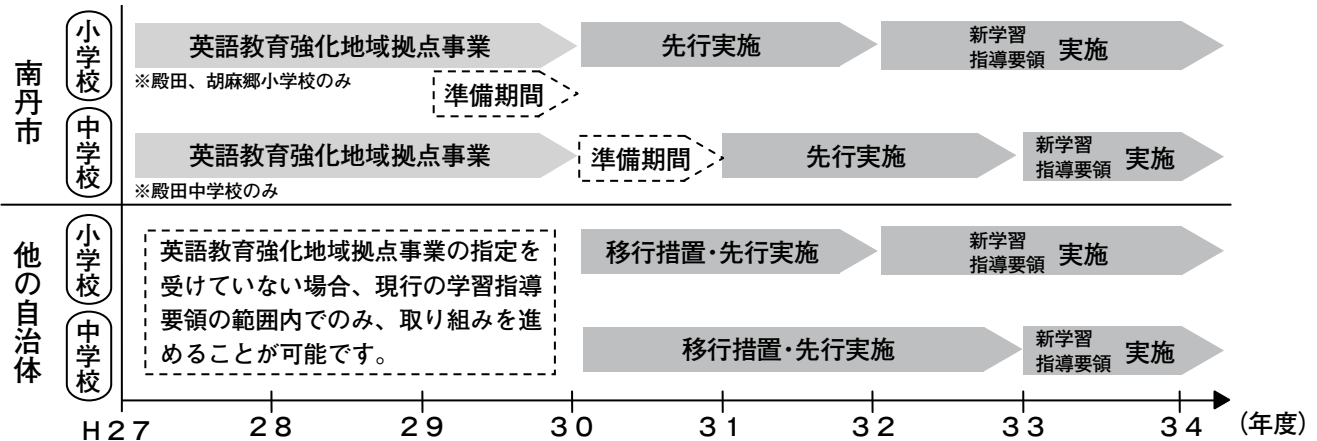
また、平成33年度から実施される中学校では、授業時間数が変わることはありませんが、教師が英語で指示したり、生徒自身が英語を使う機会をこれまで以上に増やしたりするなど、より高度化した内容となります。

英語教育強化

地域拠点事業

文部科学省が実施している「小・中・高等学校を通じた英語教育強化事業」の一つに「英語教育強化地域拠点事業」があります。この事業は、小学校で英語教育が早期に実施された場合の授業や指導方法の開発、英語を習った児童が中学校、高等学校へ進学する際の円滑な移行などを研究するものです。

南丹市教育委員会および市内全小中学校では、全ての教科や道徳などを通して、豊かなコミュニケーション力を身に付け、主体的に判断し行動できるグローバル人材の育成に努めており、特に英語教育では、平成27年度から3年間、文部科学省からこの事業の指定を受け、殿田中学校ブロックの3校（殿田小学校、胡麻郷小学校、殿田中学校）を拠点校（教育課程特例校（※））として、他地域に先駆けて新学習指導要領実施に向けた先進的な実践研究を進めています。



新学習指導要領の

実施を見据えて

文部科学省では、平成32年度の新学習指導要領への円滑な移行を図るため、平成30年度から段階的に新学習指導要領の内容の一部を実施する「移行措置」の期間と、平成32年度を待たずして、新学習指導要領の内容を前倒しして実施する「先行実施」の期間を、小学校で2年間、中学校で3年間設けています。移行措置や先行実施の取り組みは、それぞれの教育委員会に委ねられており、南丹市では、小学校は平成30年度から、中学校は平成31年度から、先行実施に取り組むこととしています。

そのため、小学校は今年度（中学校は来年度を予定）を準備期間として、殿田小学校と胡麻郷小学校以外の市内5小学校においても、現行の学習指導要領の範囲内で、小学校中学年に外国語活動を導入するなどの取り組みを進めています。

※教育課程特例校：文部科学大臣の指定により、学習指導要領の教育課程によらず、独自の教育課程の実施を特例的に認めるもの